

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

下関市立大学教学マネジメント会議

（責任者名） 韓 昌完

（役職名） 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教学マネジメント会議でプログラム全体の点検を行うほか、データサイエンス学部定例会において、プログラムの科目ごとに履修・単位修得状況を確認し、担当教員が学習状況を報告するなどして学部全体でも把握している。また、担任制を導入しており、担当学生ごとの履修・修得状況を確認している。 2024年度の履修者数実績は、プログラム開講4科目（数学基礎、データサイエンス入門、DSプログラミング入門、データサイエンス入門演習）で88名（履修率100%）であった。（単位修得率は97%）
学修成果	データサイエンス学部の全教員が出席するDS定例会で春学期及び秋学期の成績確定後に、学生の履修・単位修得状況を確認した。また、科目担当者から授業の理解度傾向等について情報提供を行った。また、春学期の成績を受けて担任による個別面談を実施した。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	教学マネジメント会議が実施している授業アンケートを活用し、学生の理解度や満足度を把握する。また、データサイエンス学部定例会で学生の理解度や傾向などを教員間で共有している。 2024年度の授業評価アンケートにおいて、80%以上の学生が到達目標を達成したと回答し、授業満足度も83%と高い数値であった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	令和6年度入学生が2年次科目を履修、修了を迎えるため、プログラムについてのアンケート実施を行い、後輩へのプログラムについての周知に掲載し推奨する予定としている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する8科目すべてについて、令和6年度のデータサイエンス学部開設時から、学部必修科目となっている。データサイエンスの基礎となるプログラムの意義を再度周知する。科目はすべて必修科目の設定としているため、2024年度履修率100%であった。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和6年度開設学部で開始したプログラムであり、2年次配当科目（令和7年度開講科目）を含むことから、修了者はいない状況である。今後プログラム修了者への調査を含め、授業等で連携する企業等への意見聴取や調査を実施する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	2024年度はプログラム開始年度のため実施していないが、今後大学と連携協定を締結している企業、高等学校や自治体に本学プログラムについて意見聴取を行い、プログラム改善に役立てていく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムは、まず1年次に基礎的な知識を修得するとともに、演習によってそれらのスキルを活用した課題解決を行うことにより、実践を経験することで学ぶ意義や楽しさについての理解を深める構成としている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	学生への資料提供や情報共有は、Googleクラスルームを使って実施している。データサイエンス学部生は、PC必修としており、授業でもオンライン資料等を活用することとしている。このほか、担当教員への質問や相談は、データサイエンス学部棟の教員研究室でのオフィスアワーを活用している。また、一部基礎科目については、授業とは別に補習を実施し、演習問題の解説等を行っている。 2024年度授業評価アンケートでは、オフィスアワーのほか補習等で授業時間外の学習を行った科目で、特に理解度が高い傾向にあり、学生の授業時間以外の学びが理解度向上につながると考えられる結果となった。このほか、分かりやすい授業を実施するため様々な取組を行った。 ・自身の講義内容修学のためだけでなく、今後の講義・演習科目履修を考慮し、より高度な分析を行うためのPC環境を学生に構築させた。 ・数理・情報などの知識が不足している学生に対して、補習の実施・穴埋め資料の配付・講義内での復習などを行った。 ・学生が自力で問題解決を考える姿勢を身につけさせるために、グループワークを行いながら、個人で課題を考える時間を設けるなど、演習内容を工夫した。